

グラウト管 ミエール・H

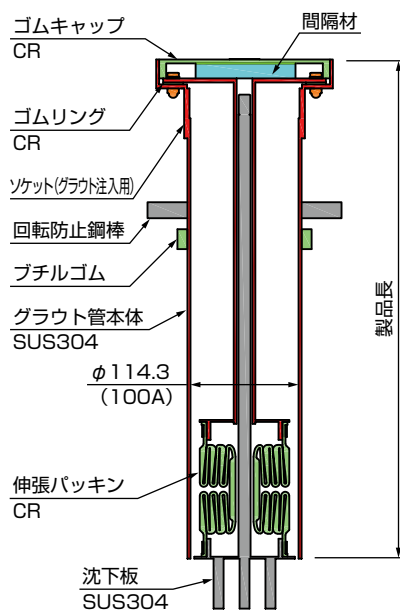
はじめに

沈下を許容し函体の底版下に空洞等を発生させない構造の柔構造樋門においても、函体底版下の実際の状態を調査する必要があります。調査孔による沈下量調査の結果、空洞化が確認された場合は、グラウト注入を行う等の対策が必要となります。

一般的なグラウト管は、沈下量調査の際に地下水が噴出する恐れがあり、この問題を解決したグラウト管が望まれていました。

この度、ゴムリング、伸張パッキンにより、地下水が噴出する事が無く、安全に沈下量の調査が可能なミエール・Hを開発しました。

構造断面図



製品写真



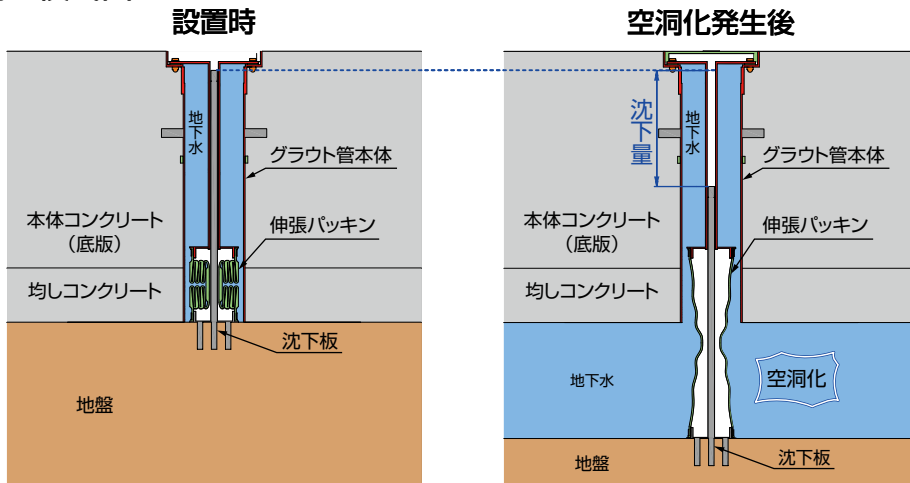
特徴

1. ゴムキャップを外し、調査棒を差し込むだけで沈下量が測定できます。
2. 地下水が噴出しない構造のため、安全に調査できます。
3. 沈下板等の内装部材を取り出すことができるので、確実なグラウト注入が行えます。

性能

許容水圧	最大測定量
0.1MPa	300mm

■ 空洞化状況の模式図



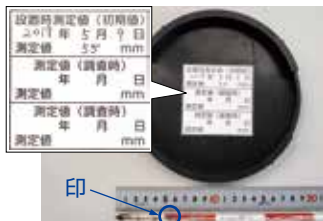
■ 沈下量測定の手順



①キャップを外す。



②調査棒を挿入し、印をつけ、沈下量を測定する。



③キャップ内側の記入シールに測定値を記入する。



④キャップを装着し、測定が完了する。

■ ゴム材料の物理的性質

項目	単位	ゴムリング		ゴムキャップ		伸縮パッキン		試験方法	
		規格値	試験値	規格値	試験値	規格値	試験値		
硬さ	---	A60 ± 5	A61	A70 ± 5	A73	A40 ± 5	A42	JIS K 6253	
伸び	%	350 以上	480	350 以上	460	350 以上	670	JIS K 6251	
引張強さ	N/mm ²	16 以上	16.8	16 以上	17.3	16 以上	15.6	JIS K 6251	
老化試験	硬さ変化	---	0~+7	+2	0~+7	+3	0~+7	+2	JIS K 6257 70°C × 96hrs
	伸び変化率	%	-30 以上	-6	-30 以上	-5	-30 以上	-6	
	引張強さ変化率	%	-20 以上	-10	-20 以上	-6	-20 以上	-10	
圧縮永久ひずみ率	%	30 以下	15	30 以下	27	30 以下	20	JIS K 6262 70°C × 24hrs 25%圧縮	
耐水性 (質量変化率)	%	5 以下	2	5 以下	1	5 以下	4	JIS K 6258 23°C × 168hrs	

(社内規格)

ミエール・H に使用する鋼材は、JIS 規格品を採用しております。

東京ファブリック工業

支店

- 札幌 盛岡 仙台 宇都宮 新潟 東京 横浜 名古屋
金沢 京都 大阪 高松 広島 福岡 鹿児島



お問い合わせ先

本店

〒163-0429 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル29階
URL : <https://www.tokyo-fabric.co.jp/>